

平成 19 年度第 2 回「健康食品」による
健康被害事例専門委員会からの報告

平成19年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時・場所

平成 20 年 1 月 29 日 午後 6 時から午後 7 時 30 分まで
都庁第一本庁舎 42 階 特別会議室 C

2 議 事

(1) 健康被害事例の分類方法について

平成 19 年度第 1 回専門委員会において検討した結果、報告事例の分類方法について、区分に応じた対応方法を含め、あらためて検討することとなった。これを受け、医学的検証、重篤度、報告数の 3 つの要素による分類方法について、判断項目の点数化や簡素化などの観点から検討を行った。これらを踏まえて今後、具体的な報告事例を用いて試行し、次回の専門委員会で再度検討することとなった。

(2) 報告事例について

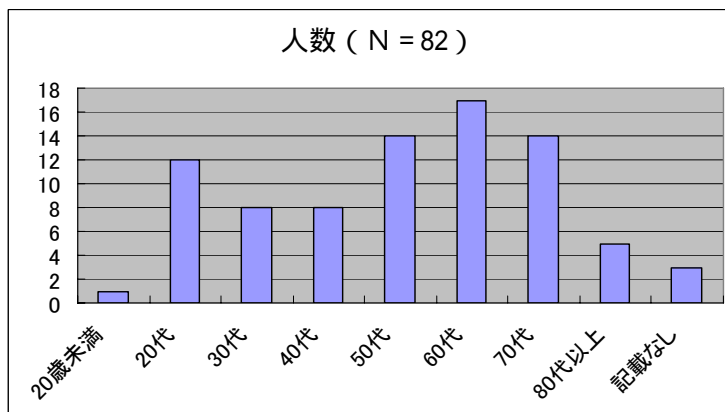
平成 18 年 7 月 1 日から平成 19 年 11 月 30 日までに報告のあった延べ 112 事例について、次のとおり取りまとめを行った。

なお、報告のあった製品と症状との因果関係は不明である。

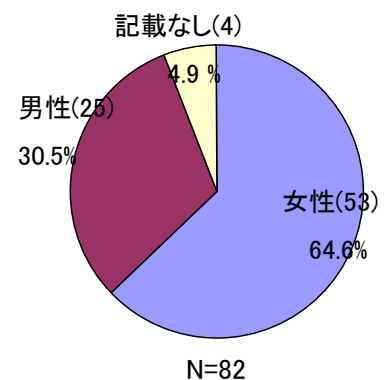
ア 報告事例の内訳

医師会	52人	延べ	78製品
薬剤師会	30人	延べ	34製品
計	82人	延べ	112製品

イ 年齢別人数分布



ウ 性別割合



年齢別人数分布によると、20代及び50～70代の報告が多い。

性別割合によると、女性（53人、64.6%）の報告は、男性（25人、30.5%）の2倍以上であった。

エ 健康食品の入手方法

入手方法	製品数
インターネット・カタログ通販等	34
薬局・薬店・ドラッグストア	33
個人輸入	2
知人からもらった	2
訪問販売	1
店頭購入	1
健康食品勉強会	1
不明	34
記載なし	4
合計	112

オ 健康食品の利用目的

目的	製品数
健康維持・栄養補給	24
関節痛(ひざなど)の改善	15
ダイエット	12
病状の改善	9
血液をさらさらにする	5
美肌	4
バストアップ	3
その他(強肝/利尿など)	10
不明	20
記載なし	13

複数回答あり

健康食品の入手先としては、「インターネット・カタログ通販等」や「薬局・薬店・ドラッグストア」が多く、それぞれ全体の約3割を占める。

健康食品の利用目的は、「健康維持・栄養補給」、「関節痛(ひざなど)の改善」、「ダイエット」などであった。

東京都食品安全情報評価委員会

「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏 名	所 属 等
池上 幸江 ()	大妻女子大学教授
梅垣 敬三	独立行政法人国立健康・栄養研究所 情報センター 健康食品情報プロジェクトリーダー
江本 秀斗	社団法人 東京都医師会理事
内藤 裕史	財団法人 日本中毒情報センター理事
浜野 弘昭	特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構事務局長
原 博 ()	社団法人 東京都薬剤師会理事
廣畑 俊成 ()	北里大学医学部膠原病・感染内科教授

() 座長

() 平成 19 年度第 1 回から就任